「地域と学校の新しいカンケイ」～WIN WIN よりHappy Happy～

【1 月 17 日放送内容】

ＤＪ：さて、今回は大庄小学校の活動について大庄小学校のコーディネーターの松岡さんと、社会教育課の増田さんにお話をお伺いします。お二方よろしくお願いします。

松岡・増田：よろしくお願いします。

ＤＪ：では、まずは松岡さん。大庄小学校では、平成 29 年度に Happy 応援ネット、いわゆる地域学校協働本部を設置し、「子どもの居場所づくり」をテーマに地域と学校が連携した活動をされているそうですね。

松岡：はい。大庄小学校では、以前から地域や保護者で学校を支援する活動が盛んでした。地域による児童の登下校の見守りや図書ボランティア、放課後支援、子ども食堂、伝統行事体験など幅広い活動を行ってまいりました。

ＤＪ：はい。本当にたくさん活動をされていらっしゃるんですね。大庄小学校は、令和２年度に尼崎市のモデル校としてコミュニティ・スクールも設置されて、「地域とともにある学校」をめざしているともお聞きしているんですけど。

松岡：はい。一昨年の 10 月に学校運営協議会の委員の皆様に集まっていただき、第１回学校運営協議会を開催し、コミュニティ・スクールをスタートさせました。

増田：学校運営協議会の皆様は教育長から辞令書を受け取られ、校長先生は、コロナ禍で様々な行事が中止や縮小になる中でも、子どもたちが笑顔で過ごせるよう工夫していることを話されていましたね。

松岡：大庄小学校は、今年の 12 月に創立 150 周年を迎えます。地域みんなでお祝いしたいと「創立 150 周年記念行事委員会」も学校運営協議会を中心に進めているところでございます。

ＤＪ：そうなんですね。大庄小学校の地域学校協働活動はどのようなことをされていらっしゃるんですか？

松岡：はい。まず最初に、図書ボランティアについてお話しさせていただきます。図書ボランティアは、毎月２回午前中に活動をしています。子どもたちに本の読み聞かせをするほか、図書室の本の整理と掲示物の作成や新しい本の登録作業、ラベル貼りなどのお手伝いを PTA の有志や OB が約２０人程で行っています。

ＤＪ：図書ボランティアの方々が、子どもたちが本に親しみ、本が好きになるような環境づくりをしてくださっているのですね。では、その他にはどんな活動がありますか？

松岡：はい。大庄小学校子ども見守り隊の「見守り活動」です。大庄小学校区では、２００４年４月より登下校時に PTA、ボランティア、教職員、警察が連携して見守り活動、あいさつ運動を行っています。活動に参加しているボランティアは、毎朝約５０名です。自宅前や校区のポイントに立って、登校す

る子どもたちを見守りながらあいさつを交わしています。

ＤＪ：地域全体で、子どもたちの安全を見守っていて、あいさつにも力を注いでいるということは、地域の方と子どもたちのコミュニケーションをとても大切にされていらっしゃるんですね。

松岡：はい、そうです。地域の方と子どもたちのコミュニケーションで言えば、だんじり保存会の活動もあります。だんじり保存会の方々が、子どもたちとだんじりの修理をしたり、盆踊りや祭りが近くなると太鼓や鳴り物の練習もしています。地域の方も子どもたちと練習するのを楽しみにしています。神社の秋のお祭りは、地域の大切な行事です。子どもたちが元気よくだんじりを引いたり、太鼓をたたいたりしながら地域を回る姿は活気があり、大変嬉しく思っています。

ＤＪ：伝統的な行事に参加することで、子どもたちもますます地域のことが好きになってくれそうですね。その他の活動もご紹介いただけますか。

松岡：はい。PTA や地域の方が、参観日の日や入学式や卒業式に教室に花瓶に入れたきれいなお花を飾る活動をしています。

増田：教室に花を飾ると優しい雰囲気になり、子どもや先生方の気持ちも和みます。私がすごいなと思ったのは、地域の方からのお花のプレゼントです。

松岡：昨年度の卒業式では、コロナウイルスの影響で、簡素な式となり来賓の出席をとりやめたため、地域として大庄小学校の子どもたちの卒業を祝う気持ちを伝えようと、大庄小学校学校運営協議会が中心となり、大庄西の地域の各団体にご協力をいただき、鉢植えのお花のプレゼントをさせていただきました。卒業式の日、鉢植えのきれいなお花が並ぶなかを卒業する子どもたちが歩きました。

ＤＪ：そうなんですね。地域の方々が色とりどりのお花で子どもたちの門出をお祝いされたんですね。さて、大庄小学校では、「子ども居場所づくり」に取り組んでいると先ほどお話がありましたけれども、どのような活動か詳しく教えてください。

松岡：はい。まず最初に始めたのは駄菓子屋です。駄菓子屋といっても本当のお店ではなく、社会福祉連絡協議会の協力を得て、地域の福祉会館で大庄小学校の子どもたちの居場所として駄菓子屋の「藤や」を開いています。これをやったきっかけというのは、地域のお母さまが「近くに駄菓子屋が無い。」ということで、「何かやってほしい」という一事から始まった活動です。土曜日の午後 3 時から午後 5 時まで、子ども会のお母さん方が交代で準備や店当番をされ運営しています。子どもたちは、駄菓子を食べながら勉強をしたり、読書をしたり、DVD を見たりして過ごしています。

ＤＪ：放課後の子どもたちの居場所というわけですよね。なんだかとても楽しそうですね。

松岡：はい、そうなんです。駄菓子屋というくらいですから、10 円から 30 円までの駄菓子や玩具を並べています。子どもたちが買えるのは 1 日に 100 円までというルールを作って、子どもたちは計算をしながら好きなものを選んで買ったり、お菓子を食べながら友だちとおしゃべりをしたり、アニメの DVD を見たりして過ごしています。また、駄菓子屋では身近な地域の方との関わりも大切にしていて、少し前にはなりますけれども、夏休みのイベントとして地域の会社にご協力をいただき、コース

ターづくりや染エコバックづくりの教室を開きました。また、12 月に地域の方が子どもたちにお正月用の「祝箸袋」の作り方を教えてくださったこともあります。

増田：低学年の子どもたちは、難しいところを地域の方に手伝ってもらい、子どもたちは地域の方が優しく教えてくださるので、お喋りをしながら楽しそうに作っていましたね。

ＤＪ：そうだったんですね。地域に子どもたちの居場所があって、地域の方も得意なことを活かして子どもたちの学びを豊かにするとても素敵な取組ですね。では松岡さん、その他にも何かありますか。

松岡：はい。子ども食堂があります。こちらも大庄小学校の居場所づくりの一環として活動しています。PTA の OB のグループで「アプサラス」というのを組織して、毎月第２土曜日にカレーライスを提供しています。始めたころは、参加する子どもの人数も少なかったのですが、徐々に増えてきました。子どもたちにとっても喜んでもらっています。ただ、今はコロナウイルス感染症の影響で活動を休止していて、早く感染が収まって活動ができるようになったらいいなと思っております。

ＤＪ：そうですよね。子どもの居場所として、子ども食堂の取組というのが本当にいま拡がってきていますよね。

松岡：はい。その他にも４年生から６年生を対象に、月３回木曜日の午後７時 30 分から８時 30 分まで英語教室を先ほどの駄菓子屋と同じ大庄西福祉会館で開催しています。

ＤＪ：今の子どもたちって、小学校から英語の授業が始まりますもんね。これまでいろいろとお話をお伺いしてきましたけども、本当に学校だけじゃなくて地域の方がこれからの未来を生きる子どもたちのために多くのことに取り組まれているってことが、よく分かりました。さて、今回は大庄地区の特色を生かした「子どもの居場所づくり」の様々な取り組みについてお話をお伺いしました。松岡さん、増田さん、どうもありがとうございました。

松岡・増田：ありがとうございました。

ＤＪ：さて、来月２月は、「企業と連携する長洲小学校の地域学校協働活動」というテーマで、長洲小学校の地域学校協働活動推進員の高谷さんと増田さんとの３人でお送りいたします。それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに。